

大腸ポリープの消失・縮小効果

■九州大学 名誉教授 藤野 武彦先生

■日本食生活学会誌 25 (1) 2014

■大腸ポリープ患者に対する乳酸菌生成エキス（大豆乳酸菌発酵抽出液）の効果



藤野 武彦先生

【要約】

大腸ポリープ患者における『乳酸菌生成エキス』の摂取効果を、大腸ポリープ患者 20 例（有効解析例 16 例）を対象にした無作為抽出二重盲検比較試験により検証した。

その結果、『乳酸菌生成エキス』摂取群では、ポリープの消失・縮小が8例中5症例で確認されたのに対し、プラセボ摂取群ではポリープの消失・縮小は認められなかつた。

【方法】

事前検診において大腸ポリープが認められた患者 20 例を対象に無作為に、10 例ずつ乳酸菌生成エキス摂取群（LDS 群）とプラセボ摂取群（プラセボ群）に振り分けた二重盲検比較試験を実施した。

摂取開始前および摂取終了後に①大腸内視鏡による大腸ポリープ検査、②血液生化学検査、③身体測定および生理学的検査、④医師の診察（自覚症状、アンケート）の検査を実施した。

有効性は摂取群別に摂取開始時検診および摂取終了後検診の各群の平均値および変化量の比較を行い、プラセボ群との比較で対応のないt検定および χ^2 検定を行い評価した。

尚、本試験はヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則を遵守して実施された。

【結果】

有効性の解析症例からは 4 名が除外され（1 例 / 試験責任医師が試験対象として不適切と判断、1 例 / 除外条件に抵触していたため、2 例 / 試験食品摂取率 80% 未満）、有効解析例 16 例（LDS 群 8 例、プラセボ群 8 例）の内、LDS 群では、8 例中 5 例においてポリープの消失・縮小が認められた。一方でプラセボ群では全く変化は認められず、 χ^2 検定で LDS 群でのポリープ消失・縮小は統計的に有意 ($p<0.01$) であった（Fig.1.）。

また新たなポリープの出現も観察されたが、LDS 群に 2 例、プラセボ群に 1 例と、両群間に統計的に有意な差はなかった。

【考察】

実験動物を使った先行研究では予防効果を主眼としたものであるのに対し、今回のヒト試験は、ポリープの治療に対する効果を明らかにするもので、ヒトを対象にしていることを踏まえると大きな意義が示されたと考えらる。

アスピリンや COX-2 阻害剤などの非ステロイド性抗炎症薬にポリープの縮小・消失効果があることは知られているが、これらの薬には副作用も報告されている。

乳酸菌生成エキスは、ほとんど副作用がない天然素材由来の成分として、ポリープ治療における応用が期待できると考えられる。

今後はより多くの症例での検討や、乳酸菌生成エキスのポリープに対する治療・予防効果のメカニズムについても検証する必要があるだろう。

Fig.1. 摂取前後の症例数の変化

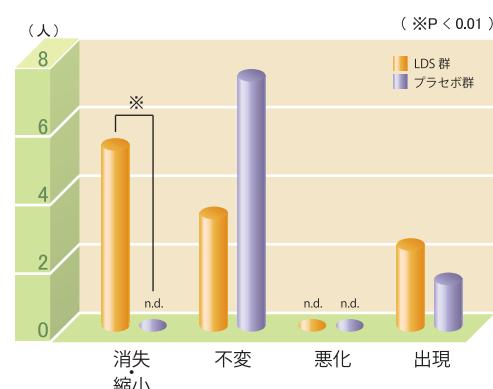


Table 1. 摂取前後のポリープ数の変化

部位	消失/縮小		不变		出現	
	A群	P群	A群	P群	A群	P群
盲腸	0	0	2	2	0	0
上行直腸	2	0	3	1	2	1
横行結腸	1	0	3	6	1	0
下行結腸	0	0	1	0	0	0
S行結腸	2	0	5	4	0	0
直腸	1	0	8	3	0	0
総数	6	0	22	16	3	1

A 群 : LDS 群 P 群 : プラセボ群